

## —自然史資料活用事業—

横山謙二・佐々木彰央



2012年12月の浜松科学館の  
出前博物館『星砂の宝石箱』  
石垣島海岸の砂から星砂を探す体験学習。

自然史資料活用事業（以下：活用事業）は静岡県自然学習資料センター（以下：資料センター）で収集・保存されている静岡県はもとより、世界中から収集された貴重な標本を活用し、自然についての理解を深めてもらい、県立自然史博物館の必要性を県民の皆様に醸成していく目的で始められました。活用事業は、2010年に県が実施する緊急雇用対策事業として、SBSメディアサービスから民間提案により実施された『静岡県の魅力を体感するための自然史資料の調査と展示事業』として始められました。NPOは、この事業に対し協力をを行い、作業従事者8名に指導をする立場として、関わりました。

そしてその翌年には、この事業は名称を『自然史資料活用事業』と変更され、NPOが受託することとなりました。この事業により、今までNPOが独自で開催してきたミニ博物館は、県企画広報部との共催で行われることとなり、資料センターをはじめ県内各地の教育施設等で8箇所以上の開催が決まりました。さらに、資料センターでは常設展示の設置が決まり、3箇所以上の施設で体験講座や解説を行う出前博物館を行うことになりました。また、これらの展示にともなう解説パネルや写真等の作成も事業の作業となりました。この活用事業は、2014年までつづきました。

これまで、開催した主なミニ博は、2011年度に「世界のアゲハチョウ展」、「富士山の生き物たち」、「南アルプスの生き物たち」、2012年度に「日本の蝶と自然」、「御前崎の地質と自然」、「守りたい静岡の自然」、2013年度に「里山の自然－日本の原風景－」、2014年度に「静岡県の化石」などを開催しました。

出前博物館は、2011年度に「貝化石発掘体験」、2012年度に「星砂の宝石箱」、2013年に「チリモン探し」、2014年度に「水辺の生き物観察」などを行いました。

これらミニ・出前博物館は、資料センターのほか、日本平動物園、富士山こどもの国、東海大学海洋科学博物館、御殿場樹空の森、静岡県立中央図書館、浜松科学館、静岡科学館る・く・る、富士山静岡空港などで開催してきました。

これらの展示物については、如何にしたら見学者や参加者に展示の魅力を感じてもらえるかを専門家の先生と話し合い、パネルのデザインなどについては、他博物館を参考にしながら作成してきました。こうして苦労して作成した展示パネル・標本は、いつでもまた展示に使えるよう、現在でも、ふじのくに地球環境史ミュージアム（以下：県ミュージアム）にて保管してあります。

2011年から始まった活用事業は、2015年になると、県ミュージアムの自然史博物館活動の一つである教育普及活動として行われることになりました。NPOは、この普及活動に協力する「教育普及事業支援業務」という事業の受託をし、県ミュージアムの普及活動を手伝っていくことになりました。現在行っている普及活動としては、大掛かりな展示ユニットを使い、各小中学校に展示室をつくるようなミュージアムキャラバンがあります。組み立て作業はたいへんですが、各学校の生徒や教員、見学者から大変喜ばれています。

今後もNPOは、県ミュージアムの研究員・職員の方々に協力し、自然史の魅力を感じてもらえるような、自然史博物館活動を行っていきたいと考えています。